がんばろう！輝く柏崎

震災その後

新団地両工場でスタート

白雪の米山も景中にペレット工場の祈願祭

震災復興の目玉として、市民会館「アルフォーレ」建設とともに期待される新産業団地「柏崎フロンティアパーク」（軽井川地内）。進出第1号の「東芝」と第2号の「アール・ケー・イー」両工場が、いよいよ新春に待望の操業を始めた。

8年前企業立地促進を目指して計画が始まって以来、15・11haを31区画に分け平成21年から分譲に入ったが、東芝が7区画に新型リチウムイオン電池製造工場、続いて地元企業のアール・ケー・イーが1区画にペレット製造工場を、それぞれ建設していた。

リケン直系のアール・ケー・イーでは、4月5日の安全祈願祭で、ペレットボイラー向けなどのペレットを製造する工場内部を関係者に公開した。原料のスギ間伐材などを地元地域の森林組合から受けてペレットを生産、ホテルや温泉施設のボイラーに供給する。

市では、団地への企業の進出促進を今後もはかるため、「誘致報奨金事業」を制定し、市民などに積極的なPRに乗り出した。進出企業からの情報を紹介し、成立した際には、報奨金（最高300万円）を支払うことにしている。

《枇杷島小に新校舎》2年がかりで建設の市立枇杷島小新校舎が完成、2月26日に竣工式をあげた。建設以来40年と老朽化したため、グラウンド跡地に鉄筋コンクリート3階建て（普通教室14、特別教室7）と屋内体育館が、遺跡の出土発掘で予定より1か月遅れで完工した。外断熱工法採用など、また市内小中学校では初の自家用発電設備が導入された。

《豪雪3・3m》平成18年以来の豪雪で、1月31日旧高柳町地域には、災害救助基本法適用で「豪雪対策本部」が設置された。市の除排雪経費は、4億5千余万円の当初予算から7億5千余万円と大幅にアップされ、援護者住宅の屋根雪下ろし、周囲の除雪作業などにも当てられた。

積雪は、330cmを記録した1月31日高柳町石黒、2月1日旧鵜川小をはじめ、1m以上が高柳町門出285、同町事務所202、北中178、旧北条北小168cmだった。

《本堂が復旧》西山町坂田、福蔵院（西沢晟光住職）本堂の落慶法要が3月20日に行われた。震災による全壊で、昨年から復旧に当たっていた。

鯛茶漬け新名物に

《全国3位鯛茶漬け》柏崎名物のタイ（鯛）を生かす「鯛茶漬け」が、見事全国3位に入賞し、大いに売り込もうとのPR作戦が始まっています。

東京ドームで開かれた「第2回全国ご当地どんぶり選手権」（1月8日―16日）で、柏崎地域観光復興推進協議会（内藤信寛会長＝高10）チームの「鯛茶漬け」が、出場20チーム中3位に入ったもの。前回の15チームから7位が大きく躍進して、北海道「うにめし丼」、富山県「白エビかき揚げ丼」に次ぎました。

9日間に入場38万人のうち「鯛茶漬け」は、柏崎からのバスツアー（360人）応援もあって、一日1800食を最高に1万154食の売り上げ。〝地震からの復興の集大成〟として、柏崎・刈羽・出雲崎の飲食店が実行委員会を結成、鯛の焼きほぐしと素揚げをメインに、アラレ、白ゴマ、もずくなど10品で味付け、コシヒカリにのせるという苦心の丼。

入賞後には、各地から持ち込まれたイベントに出場するとともに、今後シーズンに向けて各飲食店で、積極的に提供します。

《双頭レール展示》かつて日本石油柏崎製油所にあった「双頭レール」2本が、名古屋のJR東海「リニア・鉄道館」（3月14日オープン）に展示された。

明治の鉄道創成期1873年（明治6年）に英ダーリントンで製造、輸入されたレールは、切断面が上下対象となっていて、磨り減ったら反転して使っており、99年日石開設の翌年、専用線に敷設された。すでに復元の旧新橋駅構内「鉄道歴史展示室」でも2本が展示されている。

《樺太のD51引退へ》柏崎の駅前公園にあったD51機関車が、解体撤去される。平成2年の市制施行50年記念に、柴野安三郎氏（北海道交通社長、荒浜出身）の尽力で札幌から寄せられた。戦時賠償としてサハリンにあったもので、昨年調査のアスベスト撤去などには、3―4億円もかかるため保存をあきらめた。

新装なってエンマ市

堂落慶、新店舗も

大震災で多くの店舗が被害を受けたえんま通り（旧本町7丁目）。中心の閻魔堂が見事に復旧したのをはじめ、復興や再開発による新しい街作りで賑わいをみせて、新〝えんま市〟を迎えます。

《えみふるお目見え》介護福祉施設の「えみふる」が、3月1日にオープンしました。被害のすごかった通り南側、旧マリオネット跡地2千平方mに地下1階、地上5階が建設され、1階に演奏会や展覧会など向けの多目的ホール、2階にデイサービス、居宅介護支援事業、浴室など。3階から5階まで有料老人ホームで、各階に16室（1室18平方m）、定員48人、食堂や浴室も。

《共同店舗も》通り振興会が商店街自力振興のきっかけにと、旧名曲堂跡地に建設した事業。約33平方mに駐車スペース2台分。かなりの入店希望の中から、洋服のホシノ（旧本町5で営業中）が旧本店に戻り、その支店として入居します。

《落慶した閻魔堂》閻魔堂の復興に対し、東京柏会の皆様方から多大なご支援を頂き、誠に有り難うございました。感謝申し上げます。

お陰様で、昨年12月26日に遷座式を行い、さる4月15日に落慶式を迎えました。法要当日は、本山の香積寺住職をお迎えし、閻魔堂住職がお礼の言葉を述べ、町内の方々や工事関係者から祝辞をいただきました。

復旧工事では、土蔵の外壁は昔ながらの厚い土壁にすることが時間的にも無理なので、破損箇所をセメントで補修する一方、内壁は漆喰を塗って白壁にしました。向拝（ごはい）は、昔の物を使いたかったのですが、破損状態がひどく新しいケヤキ材によりました。

向拝の彫刻（脇野町の池山甚太郎作）は、破損の程度が少なかったので修復して使いました。またその柱巻（鐵型鋳金製、小熊興八郎作）は、作り替えの意見もあったのですが、原惣右エ門様から薄くて大変面倒であるにもかかわらず、修復していただきました。

帰柏の節はぜひご参拝下さい。（閻魔堂住職・今井徹郎＝高12）

新大と日大

母校の進学首位

母校の大学進学状況が4月6日現在でまとまった。国公立が新大をはじめ75人、私立が日東専を上位に329人だった。主なところ次の通り。

【国公立】新潟16、新潟県立10、高崎経済8、金沢4、信州3、北海道、埼玉、千葉、富山2、北見工業、北海道教育、東北、宮城教育、秋田、秋田県立、福島、宇都宮、群馬、東京農工、神奈川県保健、横浜市立、長岡技術科学、富山県立、石川県立、福井県立、津留文科、山梨、山梨県立、長野県看護、静岡、滋賀、神戸、神戸市外国語、広島、福山市立、防衛大学校1。

【私立】日本25、東海19、専修17、金沢工業14、新潟医療福祉12、東洋11、明治、神奈川、関東学院10、中央9、青山学院、武蔵野8、法政、帝京、新潟工科7、北里、杏林、東京農業6、駒沢、芝浦工業、大東文化、明治学院、東京都市5、拓殖、東京電機4、文教、聖徳、千葉工業、亜細亜、工学院、創価、東京経済、東京理科、明星、立教、早稲田、神奈川工科、新潟薬科、富山国際、岐阜女子3、国際医療福祉、和洋女子、桜美林、大妻女子、慶応、国士舘、順天堂、東京家政学院、東京工科、東邦、文化学園、武蔵、新潟国際情報、東海学院2。

つくば国際、群馬パース、上武、高崎健康福祉、跡見学園女子、城西、駿河台、東邦医療、神田外語、淑徳、清和、中央学院、学習院、学習院女子、玉川、東京有明医療、東京医療保健、東京女子、日本社会事業、文京学院、立正、鎌倉女子、鶴見、長岡造形、新潟リハビリ、東海学院、大同、南山、日本福祉、長浜バイオ、立命館1。

半世紀超す対面も

東京で古稀祝の後期

高弥会

かたつむり　そろそろのぼれ富士の山（一茶）

昭和31年卒業の高弥会（高8回）の古稀の会は、明治140年に当たる平成19年柏崎で開かれた。その会に欠席の小生は、久しぶりに出た例会（毎月8日）に、東京でもと幹事役を受け昨年12月8日開催した。

関東を中心に100人に案内、悲報（相澤亮一君）を除き回答97人、45人が参加となった。柏崎からは、阿部松夫君の呼びかけで8人（うち女性半数）が修学旅行ばりに団体で上京。岐阜の服部一嘉君が浜松・灰野秀郎君を帯同、石垣島から内藤健二君が直行参加してくれた。同窓会前会長の勝海昭君が持参した、柏崎の大花火カレンダー8枚を福引で配布した。

有楽町「ラ・ステラ」には、予定の午後4時より1時間も前から集まり出し、柏崎陣到着を機に30分早めてビールの開栓となった。

宴たけなわの中、卒業後に初めて顔を出し、55年ぶりの対面が至る所に出現した。胸の名札を頼りに、思い出を掘り返して話をはずませていた。興奮のせいか、酒も食事もあまり進んでいない（女性が少なかったせいかもとの意見も？失礼！）。

女性群は、卒業時277人のうち32人だから、当日7人なら当時とほぼ同率の〝高嶺の華〟。その話の輪に割り込み、男子生徒とも話をしてもらうように頼み込んだ。すると「入学時貴女を見初めて、打ち明けられなかったけど、娘に同じ名前をつけました」という者も出て来た。

小生も打ち明けたいモノがあったが、タイミング会わずか、勇気が足らずかで機会を逸し、次回に期待するか（「ムリ、ムリ」の声あり）。

入れ替わりたちかわり次々と壇上に立たせ、近況報告を強要？　あっという間に定刻。記念写真撮影、校歌斉唱、そして三階節も出る間なし。ただ大騒ぎの内に解散。三々五々、二次会に散った。

こういうようになろうかと、準備のあいさつ文を用意しておいた。「今日の再開の奇跡を感謝し、共通の友や師との思い出を大切に、後の人生をしっかりと生き抜きましょう」と締めくくった。

かたつむり

七十余年の泣き笑い（案内はがきに出した顔文字クイズの回答例）

〈追記〉毎月8日の例会会場を、東京駅八重洲北口2階「旬さがみ」に変更。（青木聰　記）

写真は意気を揚げた男性軍の一部

［出席者］阿部松夫、勝海昭、品田純一、高梨節子、中沢レイ子、長谷川洋子、松村節子、村田工（以上柏崎から）、會田正、青木聰、足立勇司、阿部正彦、飯田尚夫、伊藤誉二、伊部高由、薄井貞二、梅津東彦、片桐邦彦、桑原養生、小関資朗、小林和栄、斉木陽治、高橋三枝子、田村祥蔵、田村宣朝、富田孝雄、内藤健二、中沢進、中村省吾、西巻豊三郎、沼銑十郎、灰野秀郎、服部一嘉、藤田映子、星野幸夫、細山隆啓、巻渕昇、丸田実、宮島脩二、村田麟太郎、毛利孝男、矢代哲夫、柳景熙、矢野美樹子、渡辺誠爾。

3年で2300万円

ふるさと納税

制度が3年を越えた新しい税のかたち「ふるさと納税」で、柏崎市の結果がまとまった。それによると、22年収入464万6千円が新年度予算に計上され、3年間で2323万千六百円（20年346万7千600円、21年1511万8千円）に達した。

この制度は、新しい税金でなく、自分で応援したい地方自治体に寄付する仕組み。しかも、それに応援したい活動分野を選べる一方で、その寄付額で自分の住む自治体に納入した税金（所得税や住民税）が控除、軽減される。

＊　＊　＊

【寄付への参加】まず市役所へ「ふるさと応援寄付金申込書」を請求、これで申し込む。1万円以上の寄付者には、市からお礼（綾子舞コシヒカリ5kg）と観光情報とともに、領収書が届けられる。この寄付金領収書を、翌年の確定申告に添付すると、住民税の約10%を上限に所得税とあわせて控除される。

問い合わせ、申し込みは、柏崎市役所企画政策課（電話0257・23・5111、FAX24・7714）、メールアドレスkikaku@city.kashiwazaki.niigata.jpへ。

使途に自由な選択

◇22年の使い道◇（かっこ内は3年間の累計）

〈中越沖地震からの復興と市長にお任せ＝142万円〉震災復興記念事業など（779万7千円）

〈ふるさと柏崎の各地域の再生・復興＝82万6千円〉市民活動支援事業など（208万7千円）

〈働く場の確保のための企業誘致＝53万円〉柏崎フロンティアパーク内への企業誘致など（80万円）

〈少子高齢社会に対応した健康で安心して暮らせるまちづくり＝171万5千円〉ねたきり老人等おむつ購入助成など（1199万7千6百円）

〈次代を担う子どもたちのための教育・文化・スポーツの充実＝15万5千円〉小中学生演劇教室など（55万円）

スキー柏崎伝来一〇〇年

旧オーストリアのレルヒ少佐が明治44年（1911）1月、上越市高田にスキーを伝えて満100年。その記念イベントが今冬、高田をはじめ湯沢など上信越国境のスキー場地区を中心に盛んに行われたが、柏崎刈羽地方では〝カヤの外〟。スキーの柏崎伝来は、その1か月後なのに、『柏崎市史』などでもほとんど触れられず、あまり知られていない。しかも、誕生した日本の〈女性スキーヤー第1号〉の一人は、柏崎高女（現柏崎常盤高）体操教師で、その4か月後に死去の悲劇も起きた。

（事務局長・松浦孝義）

オーストリア・ハンガリー帝国のテオドール・エドラー・フォン・レルヒ参謀少佐（1869―1945）が、43年暮来日したのは、日露戦争後意気の上がる日本陸軍の視察。それがウィーン山岳スキー協会登山部長の経歴から、中央の意向でスキー技術教習のため、1月5日夕高田入りした。

教習は、12日から第十三師団歩兵第五十八聯隊の営庭でスタートした。スキー技術が、軍事的な役割に注目されたからで、砲兵工廠でスキーと一本の杖を急造、滑り方も履き方すら知らない将校たちが、練兵場、金谷山、妙高などで3月まで特訓を受けた。

これに高田の町民たちは強いショックを受けた。せいぜいソリかカンジキしかない雪中の通行手段に対して、〝文明の利器〟の渡来に、地元紙は「雪滑」や「雪艇」の字を当て、報道合戦を繰り拡げた。

軍事面からの一方で、保健体育の利点・特質の見方も注目、冬季スポーツ、レジャーとして続くきっかけになった。ブームの平成初期、スキー人口千九百万近くといわれたがバブル崩壊後退に、百年を機に再興の願いが込められていよう。

この年2月県内中等学校

レルヒ直伝母校へ

体操で喜んだ先輩たち

22校の教職員28人が、15日から5日間講習会を受けた。柏崎から母校の光澤（つや）馨香（陸軍少尉、明治42年9月―大正3年6月兵式嘱託。後に柏崎町助役）と堀川兵記（陸軍中尉、明治44年1月―大正元年1月同）、高女の大内婦みし（履歴書による、通称文子。体操）の3人が参加した。

女子は、大内と新発田高女（現西新発田高）の佐野サイ（元柏崎小教諭、国語）と2人。ただ大内は「校内の都合により」と2日間だけに終わり、高田高女（現高田北城高）の国語教師が〝お相伴〟（本人の弁）したという。

しかし帰校直後、生徒たちにスキーがもたらされたとは、いえないようだ。まず2月半ばを過ぎていて、柏崎で積雪が期待出来ない。それよりも当時スキーの確保が無理だからだ。将校らのスキーは、砲兵工廠で試作急造で、柏崎ではどんなに早くても、物理的にも44年暮以降と考えたい。

母校の『回顧六十年』に、スキー関連事項は、中沢房吉さん（中8）の「極楽寺の桜」の中にあるだけだ。帰国後のレルヒに会った貴重な体験も記され、多分現地で面談した唯一の柏崎人でないだろうか。

「名物男の森正隆知事が県下中等学校の生徒に、冬の体操、兵式の訓練をやめさせ、スキー練習に専念させた。私共がどんなに喜んだことか。中学の横や裏の砂丘で縦横に滑りまくったものである。

そのレルヒ中佐は、退役の中将になって昭和2年頃、オーストリアのウィーンに生きていられ、恰度ウィーン大学で研究していた私は、一日レルヒ中将を訪ねた事がある。長身ヤセ型の老人で言葉すくなに話し合った」

中沢さんは、東北医科大1回生、大正12年東北帝大助教授、14年医学博士（柏中で2人目）、翌年留学している。面談は中沢博士35歳、レルヒ58歳のころか。後に東北大名誉教授、国立仙台病院長を歴任した。柏中入学は明治40年だから、スキー渡来が4年3学期の冬。喜んだ時期は、5年の冬（明治44年―45年）であろうか。

いずれにしても、太平洋戦争前まで柏崎でのスキーは続き、時には大学進学後も選手活動を続けたケースもあった。戦後も各地にスキー場が開設、中学校の大会も開かれたが、昭和40年代までだった（『米峰五十年史』＝米峰スキー連盟編）。やはりシーズン中に積雪をコンスタントに望めないせいか。

ただレルヒは、1年間の滞在中（明治45年1月24日旭川へ転任、10月帰国）に、少なくても2回来柏した。3月5日「第五十八聯隊のスキー専修員一同は、各自スキーを携へ鯨波に向ひ、日曜日の清遊旁其実習を行ひ、尚米山峠登攀を試みた」（『高田新聞』）。これを発掘した三宮勉さん（中25）によると、本人の手記で「9月某日柏崎方面に旅行、某富豪の邸宅を訪問して歓待された。その家の奥さんが、すこぶる美人で」とあり、ただ残念ながらその家が特定されないという。

しかし柏崎に帰った大内には、高女で生徒に教習の機会がなかった。6月5日、29歳で他界したのだ。校内雑誌『ときは』第六号（45年3月発行）は、大幅に〝大内先生の追悼〟にあてている。開校（36年）4年目に、24歳で着任の体操担任死去は、うら若い乙女たち対して非常に悲しみのショックを与えた。

5月1日病気欠勤中で入院、6月5日永眠、8日遺骨を停車場に見送りとあり、仮葬（6日護摩堂）での校長、卒業生・在校生・春風寮各総代の弔辞、経歴も掲載している。大内は明治15年宮城県桃生郡広淵村生まれ、36年10月東京女子体操音楽学校（現東京女子体育大、開校2年目）を経て、東京・三輪田高女、岩手県立高女から39年4月赴任。12月から養蚕教諭を兼ね寄宿舎舎監も勤めた。

また生徒の随想には「越後婦人とスキー」などがあり、「我校にても、体育の発達精神の修養上、新式なるノルウエー式スキーを購入し、職員生徒一同熱心に練習することになった」「藁靴軽く、長き杖を両手に持ちて、元気良く辷り歩く様、見るも勇ましく、日本魂も思い出されて、一段の活気は更に加はるのである」と、校庭の実習写真2枚を載せている。

高女のスキーも、母校と同様に明治44年冬からで、『ときは』第七号（大正2年3月発行）によると、光澤馨香と北畠喜助（体操）両教師の指導を受けた。

なお佐野（新発田高女）は、新潟尋常師範卒業後の明治25年柏崎小に1年間勤務、その後大内と同じ東京女子体操音楽学校に入って同窓、講習会の〝紅二点〟とも柏崎に縁があった。

15年ぶり出場

箱根駅伝

やや旧聞になりますが、新春恒例の大学対抗箱根駅伝で、國學院大の田中光太郎君（高59）が1区に初出場し9位（1時間04分24秒）に入った。母校からの出場は15年前の法政大1区小林哲也君（高44、後に新潟・福田組）以来だった。

國學院大で母校からの選手出場は、初めてで、総合10位とギリギリで初のシード校（10位まで予選なしで次回出場）となり、2001年に初登場から5回目だけに話題を呼んだ。その原動力に田中君の力走も、大いに貢献した。出場のための予選（立川、20k）では、36校の5百人近い中で36位の好成績、大学も拓殖大に次ぎ2位（10人の成績で集計）だった。

大潟町出身で在学中は、千五百など中距離で国体などに出ていたという。「高田、直江津などインパクトの乏しい地元を避け、逆方向の柏高を選んだ」のを、関係者は評価していた。

また田中君と同級の霜田静香さんが、専修大のマネジャーに登録されていた。在校生の半分が女性で占められる現在では、当然になったかもしれないが、もちろん初登場。二人とも大学最終。今後後輩の育成に大きな力となって、母校飛躍を期待したい。

柏崎フロンティアパーク
http://www.kashiwazaki-fp.jp/
新産業団地 好評分譲中！
★ 全国トップクラスの電気料補助　★ 多彩な税金優遇制度
★ 低価格（6,900円/㎡～）＋ 最大50％の用地取得費補助
★ 便利なアクセス　★ 2つの大学に隣接し産学連携が可能
お問い合せ先
◆独立行政法人 中小企業基盤整備機構関東支部信越事務所　(TEL) 0256-39-7485　http://www.smrj.go.jp
◆柏崎市産業振興部企業立地推進室　(TEL) 0257-21-2362　http://www.city.kashiwazaki.niigata.jp
(E-mail) kigyou@city.kashiwazaki.niigata.jp

新潟清酒
銘酒　越の誉
原酒造株式会社
柏崎市新橋五―一二
東京営業所　板橋区徳丸七―一六―一五
TEL（三九三五）一六一一

株式会社阿部建設
社長　阿部 尚義（高35）
会長　阿部 弘一（高7）
柏崎市比角二―三―二六
TEL（23）4173

学校法人　中延学園
理事長　佐藤 早苗（高5）
品川区西大井六―一―一三
電話（三七八四）二一三一

ガス化溶融リサイクル施設
シモダ産業株式会社
社長　霜田 彰（高18）
柏崎市松波二―七―四
TEL（二三）五二四〇

中越沖地震からの復興をめざして
「がんばろう！輝く柏崎～さらなる未来へ～」
「あなたの想いをふるさと柏崎へ」
柏崎市に「ふるさと納税」でご寄付の応援をお願いします！
柏崎市 ふるさと納税　検索
http://www.city.kashiwazaki.niigata.jp/furusato/
※ホームページの電子メールからの寄付申込もできます

（国重要無形民俗文化財「綾子舞」）
■柏崎市ふるさと応援寄附金の問い合わせ・申込み窓口
〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5-50
柏崎市役所企画政策課
TEL (0257) 23-5111　FAX (0257) 24-7714

税理士
佐藤 正幸（高20）
港区六本木三―四―二五
メゾン六本木501
TEL（三五八九）一六四一

公認会計士・税理士
武田 茂（高23）
千代田区九段北四―一―一
九段一口坂ビル 8F
TEL（三二二一）八九〇五

株式会社　植木組
取締役会長　植木 康之（高15）
取締役社長　植木 義明（高23）
新潟県柏崎市新橋二番八号

角田建設株式会社
有限会社　角田不動産
代表取締役　角田 一成（高10）
柏崎市松美一―一一―五一
電話（23）三六三八

総合建設業
東北工業株式会社
代表取締役会長　桑山 雄（高16）
柏崎市鏡町五―一二